

群馬県利根沼田地域

「農業＋観光＋林業」で

実現する村おこし

～森林資源のフル活用をめざして～



図1 川場村GVPの木材コンビナート構想

1 利根沼田地域の概要

利根沼田地域は、群馬県東北の5市町村（沼田市、片品村、川場村、昭和村、みなかみ町）からなり、県内森林面積の約36%にあたる15万2千haの森林を有しています。



ラム」を策定しました(図1)。この成果として、平成27年度には第三セクターの(株)ウッドビレッジ川場」を立ち上げ、低質材を加工する製材工場を整備しました。また、平成28年度には小規模木質バイオマス発電施設を整備し、縁組協定を結んだ東京都世田谷区の住民へ売電を行っています。

2 地域構想の概要とこれまでの取組

平成29年度に策定した「林業成長産業化地域構想」にもとづき、A～D材まで森林資源のフル活用を目的とした次の4点を重点プロジェクトに位置づけ、取り組みを行っています。すなわち、①森林資源活用高度化、②新規需要開拓、③地域材利用促進、④きのこ生産拡大です(図2、図3)。

①森林資源活用高度化プロジェクト

平成29年度は、森林組合・輸送業者・ウッドビレッジ川場との間で需給情報をクラウド上で共有し、発注も行えるソフトウェアを開発しました。さらに、平成30年度には低質材需要者も利用できるよう機能拡充し、川上から川下まで連携して効率的な木材の収集・運搬を行える体制を整備しました(図4)。また、皆伐・再造林により森林資源の循環利用を推進するため、シカ等



図2 未利用森林資源も活用した林業と観光の融合化 利根沼田地域林業成長産業化構想



写真1 鉾塩とワナの設置状況



写真2 地域材を活用した農業用温室

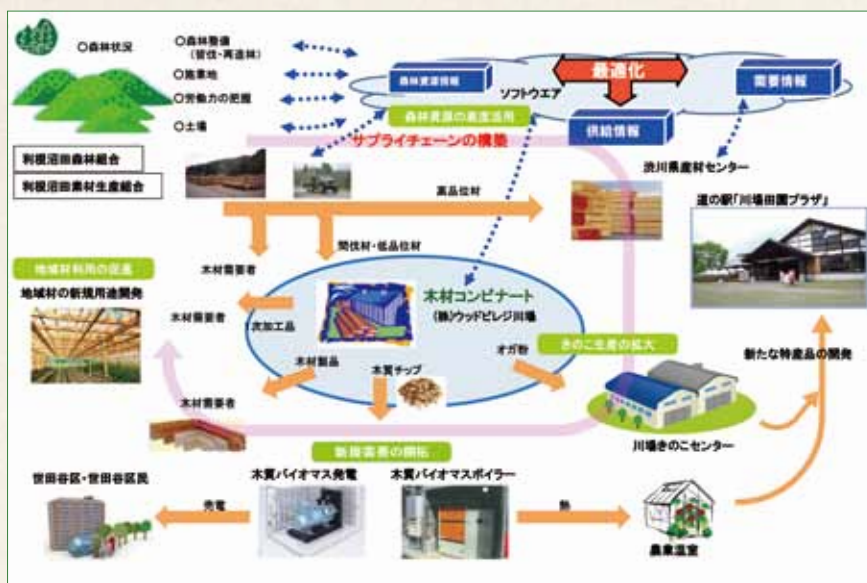


図3 利根沼田地域林業成長産業化構想 イメージ図

機能		①生産計画 (施業決定時)	②注文 (原木注文時)	③施業地に 割当 (注文受領時)	④生産情報 報告 (原木生産時)	⑤輸送依頼 (はい積時)
森林 組合	事務所	入力		割当		
	山土場				報告	依頼
輸送業者						
ウッドビレ ジ 川場			注文			

図4 需給連携システムの概要

による獣害被害への効率的な対策について検証を行っています。平成30年度は、鉾塩とセンサー付きワナによる誘引捕獲の実証試験において3頭のシカを捕獲し、鉾塩の誘引効果と、見回り作業の省略による効率化を確認しました(写真1)。

②新規需要開拓プロジェクト

低質材の新たな需要先を創出するため、今年度事業ではバイオマスボイラーの設置を進めています。完成後は、先述のシステムを用いてウッドビレジ川場から燃料となるチップを供給する計画です。

③地域材利用促進プロジェクト

地域材の新たな活用方法を開拓するため、実証事業として平成29年度に本地域の木材を利用した農業用温室を整備しました。豪雪地帯である本地域にあわせ、耐雪性・耐風性を考慮した設計とし、実際に温室で農作物を生産する事で有用性を検証しています(写真2)。

④きのこ生産拡大プロジェクト

これまで利用が進まなかった低質材や広葉樹材について、きのこの栽培への活用を、学術機関と連携して検討を行っています。平成30年度は、地元産のコナラとスギの木粉を使用し、シイ

タケ(コナラ)と、ヒラタケ・エリンギ(コナラ・スギ)の菌床栽培試験を行いました。

3 これからの取組

今後の取り組みとして、需給調整システムについては実際の試験運用を通して実用性を検証していきます。また、獣害対策についてはワナの設置箇所を増やすとともに、初期成長のよい苗木の植栽試験を行い、食害に対する有効性の確認を行います。きのこ生産については、生産施設等のハード整備を行い、地域で利用が進まなかった低質材の活用促進を行うとともに、収穫したきのこを販売することで、課題となっている冬の農林産物供給不足を解消し、観光業のさらなる発展につなげる計画です。

4 おわりに

これまで農業と観光業に力を入れてきた本地域において、林業との新たな組み合わせを試みるこの取り組みは、多くの農山村にとって一つのモデルになり得ると考えています。地域内で資源を循環利用することで、持続可能な「本地域ならではの「林業成長産業化」の姿を今後も模索していきます。